



公立大学法人名古屋市立大学

環境報告書 2024

[令和6年度版]



1. 理事長メッセージ

現在、世界は地政学的緊張や気候変動の進行により自然災害のリスクが高まっています。このような厳しい環境の中で、私たちには持続可能な解決策を見出し、希望ある未来切り拓く責任があります。

本学においては、その中であって創意工夫を重ねながら、環境問題への様々な取組みを通して、未来のリーダーを育成し、世界に発信する研究を行うことにより、さらなる社会貢献に努めております。

2012年に環境憲章を制定し、基本理念とそれに基づく7つの基本方針を立て、計画目標「アクションプラン」を策定しました。2022年2月に策定した「名市大未来プラン2021」を着実に実行するため、2023年1月に「研究科等未来プラン2021」を策定し、環境に配慮した持続可能な社会の実現のため、継続して環境負荷の低減と環境の保全に努めているところです。

SDGs(持続可能な開発目標)に対して、大学がいかに取り組み、社会に影響を与えているかを可視化したランキング「THE インパクトランキング2025」が、本年6月に発表されました。本学は、総合ランキングにおいて世界401-600位、国内同率14位に、SDG3「すべての人に健康と福祉を」では、世界同率45位、国内3位にランクインしました。これまでの本学の環境問題等への取組みが高く評価されたことに誇りを持ちながらも、より一層活動を高めてまいります。

本報告書を通して、本学の環境安全確保の活動への、温かいご理解とご支援を引き続き賜りますようお願い申し上げます。



理事長
郡 健二郎

2025年10月

公立大学法人名古屋国立大学

理事長

郡 健二郎

2. 環境マネジメントシステム

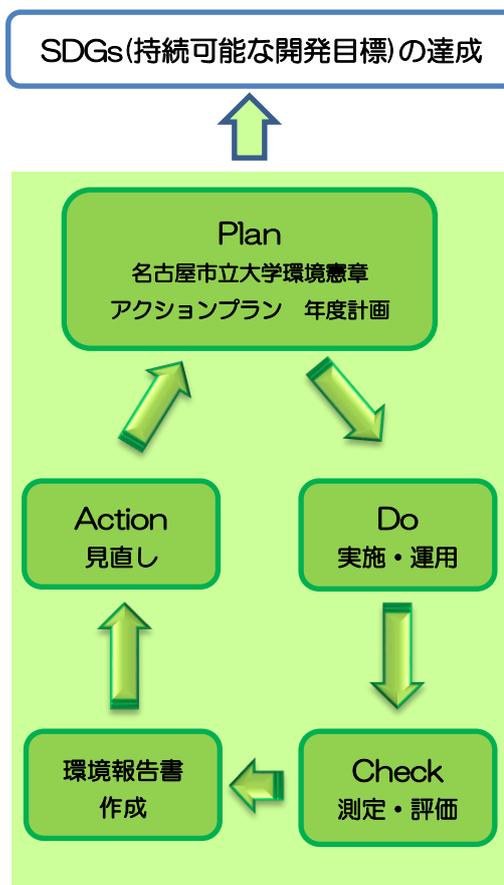
(1) 環境マネジメントシステム

組織や事業者が、その運営や経営の中で自主的に環境保全に関する取り組みを進めるにあたり、環境に関する方針・目標を自ら設定し、これらの達成に向けて取り組んでいくことを「環境マネジメント」といい、このための事業所内の体制や手続き等の仕組みを「環境マネジメントシステム」といいます。

本学では、環境憲章で定めた基本方針の実現のために、基本方針の各項目について3年間の計画目標(アクションプラン)及び具体的な取組目標を定めています。

右図に示すP D C Aサイクルを名古屋市立大学の環境マネジメントシステムの体系と定め、同システムの継続的改善により、さらなる環境への取り組みを進めていきます。

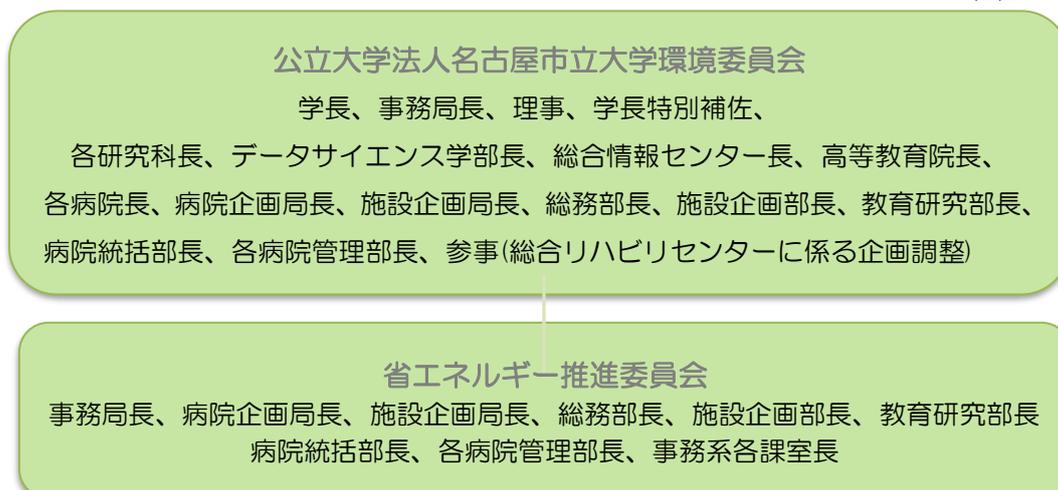
これらの計画達成を通じて、国連サミットで採択されたSDGs(持続可能な開発目標)に積極的に取り組みます。



(2) 推進体制

環境負荷の低減及び環境の保全に取り組むための全学委員会として、副理事長(事務局長)を委員長とする公立大学法人名古屋市立大学環境委員会を設置しています。3年間の計画目標(アクションプラン)及び具体的な取組目標についても、環境委員会において審議しています。環境委員会には、省エネルギーの取り組みを推進するため、省エネルギー推進委員会を設置しています。

令和6年度時点



3. 名古屋市立大学環境憲章

平成 24 年 4 月 1 日制定

[I] 基本理念

人類の様々な活動が地球環境に大きな負荷を与えているという現実の中で、環境負荷の低減と環境の保全に努めていくことは、教育研究活動を通じて次世代を育成し、社会に貢献する大学の使命である。

名古屋市立大学では、様々な危機に直面している地球環境を救うために、幅広い専門分野の教育・学術研究・社会貢献活動を可能にする総合大学としての特徴を活かし、以下の基本方針に掲げる環境保全活動を積極的に推進する。

[II] 基本方針

- 1 環境問題への理解を深める教育を推進し、将来、持続可能な地球環境を保全し、環境問題に取り組んでいくことのできる意欲ある人材を育てていく。
- 2 学生の学内、地域社会、国内外における環境保全活動への自主的な参画・取り組みに対して積極的に支援していく。
- 3 生物多様性の保全に関連する学術研究等を推進する。
- 4 環境に関連した公開講座、シンポジウム等を地域社会や企業などと連携して開催し、地域社会に貢献する。
- 5 環境負荷低減のために、環境マネジメントシステムに沿って行動計画（アクションプラン）を策定し、キャンパス内で省エネルギー・省資源に積極的に取り組み、実践していく。
- 6 物品調達に際してグリーン購入の推進を図るとともに、設備・機材等の利用にあたって廃棄物の減量化とリサイクル資源の活用を推進していく。
- 7 環境マネジメントシステムを絶えず見直すとともに、環境保全活動の成果（環境報告書）を広く社会に公表していく。

SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) とは

SDGs とは、誰一人取り残さない持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2015年に国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられました。17の目標(SDG)と169のターゲットから構成され、先進国を含む全ての国が取り組む目標です。

令和元年7月、本法人の設立団体である名古屋市は内閣府よりSDGs未来都市に選定されました。また本学では、SDGs達成に向けた活動の推進を目的として、令和3年5月に名古屋市立大学SDGsセンターを設立しました。

- SDG 1 貧困をなくそう
- SDG 2 飢餓をゼロに
- SDG 3 すべての人に健康と福祉を
- SDG 4 質の高い教育をみんなに
- SDG 5 ジェンダー平等を実現しよう
- SDG 6 安全な水とトイレを世界中に
- SDG 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- SDG 8 働きがいも経済成長も
- SDG 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- SDG 10 人や国の不平等をなくそう
- SDG 11 住み続けられるまちづくりを
- SDG 12 つくる責任つかう責任
- SDG 13 気候変動に具体的な対策を
- SDG 14 海の豊かさを守ろう
- SDG 15 陸の豊かさも守ろう
- SDG 16 平和と公正をすべての人に
- SDG 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

17の目標は、生産や消費など経済に関する課題、健康や教育など社会に関する課題、自然やいきものなど環境に関する課題の3つの分野から構成されています。

このうち、環境報告書においては、主に環境に関する課題について、本学が取り組んだ事項を、7つのアクションプランごとに報告いたします。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



4. アクションプランの取り組み状況

令和6年度 アクションプランの年度取組目標の達成状況

基本方針	令和6年度の具体的な取組目標	自己評価	参照ページ
1	教養教育及び専門教育において、各学部・研究科のカリキュラムや専門性に合わせた環境関連科目を継続して開講し、その充実を図る。	◎	P.7
2	① SDGs センターとして各種イベントに参加し、取組内容を発信する機会を学生に提供する。SDGs センターHP や SDGs News Letter を通じて学生の取組内容を紹介する。 ② 大学祭、課外活動その他の学生の自主的な活動の機会における環境に関する取り組みを持続して支援する。 ③ 国連食糧機関（FAO）の海外事務所に学生最大3名を派遣してインターンシップを実施する。	○	P.9
3	① 生物多様性研究センターを中心に、生物多様性の現状把握や保全に関連する研究を行うとともに、生物多様性に関わる名古屋市等の関連部署や活動団体と協働し、高校生をはじめとする市民に生物多様性の大切さを啓発する活動を行う。 ② 環境分野に係る外部研究資金獲得に向けて関係各所管課室を通じて学内の研究者に公募情報を発信するなど研究支援を行う。	◎	P.12
4	① 本学が主催する公開講座や他機関との連携講座などで、環境に関連したテーマの講座を開催する。 ② 名古屋市等が開催する環境や SDGs に関連したイベントに出展し、本学の取り組みの発信を行う。	◎	P.14

基本方針	令和6年度の具体的な取組目標	自己評価	参照ページ
5	<p>① エネルギーの使用に係る原単位を年平均 1%以上低減する。水道使用量について、前アクションプラン期間（令和 3～5 年度）の平均使用量以下となるよう節減に努める。</p> <p>② 名古屋市「市民の健康と安全を確保する環境の保全に関する条例」に基づく地球温暖化対策計画書に掲げる温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成に取り組む。</p> <p>③ 年間の自動車燃料使用量について、車両一台あたりの使用量が令和 5 年度の一台中あたりの使用量以下となるよう削減に努める。</p> <p>④ 両面印刷や集約印刷、不要となった用紙の裏面利用、ペーパーレス会議の拡充等により、職員一人あたり、年間の用紙使用量が前アクションプラン期間（令和 3～5 年度）の平均使用量以下となるよう削減に努める。</p> <p>⑤ 職員一人あたり、年間の一般廃棄物の排出量について、前アクションプラン期間（令和 3～5 年度）の平均排出量以下となるよう削減に努める。</p> <p>⑥ 環境省が作成した「廃棄物処理法に基づく感染性廃棄物処理マニュアル」を基に医療廃棄物の適正な処理を行う。医療廃棄物の分別方法について院内にて研修や掲示を通して周知を行う。</p> <p>⑦ 〈施設再編整備での取り組み〉新棟建設においては、ZEB Ready 相当の水準の環境性能を持つ建物を目標にする。</p> <p>⑧ 〈救急災害棟での取り組み〉</p> <p>建 築：断熱性能の高い複層ガラスの採用や室内日射抑制を図るバルコニー等の設置</p> <p>空調設備：高効率なコージェネレーションシステムや地中熱利用空調システムの採用</p> <p>衛生設備：節水型器具及び自動水栓の採用</p> <p>電気設備：LED 照明器具の採用。人感センサーやスケジュールによるこまめな制御</p>	○	P.17
6	<p>① 学内における不要物品の有効活用を継続して実施するとともに、有効活用した物品を一覧にし、廃棄物の減量を可視化する。</p> <p>② 資源化率 100%を維持する。</p>	◎	P.27
7	<p>① SDGs との関連が分かるような環境報告書を作成し、本学ウェブサイトに掲載する。</p> <p>② 各研究科から選出された委員等により構成された SDGs センター会議を開催し、SDGs センターの活動方針を決定するとともに、SDGs に関する活動について情報共有を実施する。</p> <p>SDGs センターとして学内・学外と連携したシンポジウム等を開催する(共催や協賛等のイベントを含む)</p> <p>SDGs センターHP において SDGs 達成に向けた活動内容を発信するとともに、News Letter を発行する。</p>	◎	P.28

[評価] ◎：目標を達成した ○：一部未達成だが概ね達成した
△：取組が不十分である ×：取組を行わなかった

基本方針1

環境問題への理解を深める教育を推進し、将来、持続可能な地球環境を保全し、環境問題に取り組んでいくことのできる意欲ある人材を育てていく。

アクションプラン (令和6~8年度)

環境問題への理解を深める科目を充実させる。

令和6年度 具体的な取組目標

教養教育及び専門教育において、各学部・研究科のカリキュラムや専門性に合わせた環境関連科目を継続して開講し、その充実を図る。

教養教育科目

「ESDと地域の環境」

- ・環境問題の解決に向けて、一人ひとりが何をすべきかについて理解する。
- ・特に地域における環境問題の改善に向け、自分がどのように貢献できるかを考え、理解する。

学部専門科目

「環境経済学Ⅰ」

- ・現代社会が直面している地球温暖化問題の現状と本質を理解できるようになる。
- ・地球環境問題と経済の関係性を理解し、問題の発生要因について経済学的見地から説明できるようになる。

関連するSDGs



自己評価



- [評価] ◎：目標（年度計画）を達成した
○：一部未達成だが概ね達成した
△：取組が不十分である
×：取組を行わなかった

取り組み状況

(1) 令和6年度計画の取り組み状況

教養教育及び専門教育科目においては、環境問題及びその周辺の諸課題を認識し、自ら解決方法を考えさせることを目標とした科目を引き続き開講しました。

教育区分	授業科目名（令和6年度開講実績）
教養教育 (22科目)	ESDと地域の環境、環境と社会・制度・政治・経済、環境科学、動物とヒトの進化多様性、都市と自然、行動生態学、植物とバイオテクノロジー、地球史入門、地域生態学、社会と医学、教養として知っておきたい様々な病気の実態、次世代エネルギーワークショップ、植物の多様性と環境、健康・スポーツ科学、ヘルシーライフ、人と法と医療、SDGsを考える：医療系、SDGsを考える：自然系、SDGsを考える：数理情報系、SDGsを考える：社会科学系、持続可能な社会と私たち、人間の行動・心理と建築
専門教育 (26科目)	データサイエンス入門、行動科学、社会医学講義（予防医学基礎）、基礎自主研修（環境労働衛生学分野選択）、社会医学講義（予防医学応用）、MD-PhD前期コース、衛生化学、環境衛生学、公衆衛生学Ⅰ、公衆衛生学Ⅱ、環境経済学Ⅰ、ESD概論、環境教育論、保育内容演習（環境）、ESD演習（海外スタディツアー）、文系のための環境理学入門、環境社会学、環境政策論、社会調査実習1、社会調査実習2（馬渡ゼミ）、ランドスケープ論、建築環境心理論、建築環境工学、建築環境計画、グローバルヘルス、小児看護学概論
大学院教育 (16科目)	予防・社会医学講義Ⅰ、環境労働衛生学（講義・演習・実験実習）、社会医学系基礎、Basic Medical Science 1、Basic Medical Science 2、薬用資源学特論、衛生化学特論、レギュラトリーサイエンス、環境資源経済論、環境資源経済論特殊講義、環境社会学研究A、ランドスケープ特論、建築環境心理特論、建築設備設計特論、成育保健看護学、理論看護学

全学共通の教養教育科目においては、全学部生が履修できるよう、教養教育の環境関連の科目22科目を開講し、環境問題への理解と関心を深めるようにしています。

学部専門教育科目においては、授業科目「ESD概論」では、気候変動やごみ問題をはじめとする環境問題が、自らの生活と密接に結びついていることに気づき、どうしたら持続可能な地球環境の保全に取り組めるのかを身近な諸課題に結び付けて具体的に検討し、実行しています。

また、大学院教育においても、環境問題について様々な学問的手法による分析、現地調査などによる研究を取り入れた授業科目が提供されています。「建築設備設計特論」では、日本を含む世界のエネルギー消費事情と政策動向を概観し、地球環境と建築とのかかわりを知ることで、未来を担う一人ひとりがその責務を認知し行動に移すことを目指しており、この授業を通して、建築設計のなかで実現できる省エネ・環境負荷手法について理解でき、建築設計者として取り組める環境配慮策を身につけます。

<h2>基本方針2</h2>	<p>学生の学内、地域社会、国内外における環境保全活動への自主的な参画・取り組みに対して積極的に支援していく。</p>
<h2>アクションプラン (令和 6~8 年度)</h2>	<ol style="list-style-type: none"> ① SDGs センターとして学生の SDGs に関する活動を学内外に発信する。 ② 学生が課外活動等の一環として行う自主的な環境に関する取り組みに対して、支援を行う。 ③ 国際交流機関や団体等において環境等に関するグローバルな取組み等について学ぶ機会を提供する。
<h2>令和 6 年度 具体的な取組目標</h2>	<ol style="list-style-type: none"> ① SDGs センターとして各種イベントに参加し、取組内容を発信する機会を学生に提供する。SDGs センターHP や SDGs News Letter を通じて学生の取組内容を紹介する。 ② 大学祭、課外活動その他の学生の自主的な活動の機会における環境に関する取り組みを持続して支援する。 ③ 国連食糧機関（FAO）の海外事務所に学生最大 3 名を派遣してインターンシップを実施する。
<h2>関連する SDGs</h2>	
<h2>自己評価</h2>	<p style="text-align: center;">○</p> <p>[評価] ◎：目標（年度計画）を達成した ○：一部未達成だが概ね達成した △：取組が不十分である ×：取組を行わなかった</p>

取り組み状況

(1) 令和 6 年度計画の取り組み状況

- ① SDGs センターとして各種イベントに参加し、取組内容を発信する機会を学生に提供する。SDGs センターHP や SDGs News Letter を通じて学生の取組内容を紹介する。

令和 6 年度は企業や団体が開催する 4 つの SDGs 関連イベントに参加し、学生が研究やゼミでの取り組みを学外に発信する機会を提供しました。SDGs センターHP や 2 か月に 1 度発行している SDGs News Letter を通じて学生の多様な SDGs の取り組みを紹介しました。また、SDGs News Letter は参加した SDGs 関連イベントで配布を行い、学外にも広く発信しました。



学生の活動紹介の様子（経済学部）

名古屋六大学プロギングを実施しました

11月24日（日）に名古屋六大学の取り組みの一環として、学生たちが合同で「名古屋六大学プロギング」を実施しました。プロギングは、ジョギングとごみ拾いを組み合わせたスウェーデン発のフィットネスです。当日は、61名の学生（うち、本学学生6名）が参加し、名古屋六大学の学生混合チームが各大学から川名公園までプロギングを行いました。所属大学を超えて学生が交流でき、合計9.8kgのごみが集まりました。

●名古屋六大学について
名古屋市内の名古屋大学、名古屋工業大学、名古屋市立大学、南山大学、名城大学、中京大学は、2023年5月28日に国公私立の枠を超え、教育・研究・学生交流の分野での連携・協力に関する協定を締結しました。




プロギングの様子

SDGs News Letter (Vol.19 抜粋)

② 大学祭、課外活動その他の学生の自主的な活動の機会における環境に関する取り組みを持続して支援する。

学友会や各キャンパスの自治会の企画により、4キャンパスにおいて「開学記念日一斉清掃」が実施され、課外活動団体や有志の学生が参加しました。

学生の自治組織である名古屋市立大学学友会は、平成23年に環境に配慮して行動することを宣言しています。

名古屋市立大学学生による環境配慮行動宣言

私たちは、より環境に配慮した行動をするために、以下のことを宣言します。

1. エネルギー使用量削減に努めます
 - ・ 節電・節水を心がけます。
 - ・ 不在時には照明機器のスイッチをオフにします。
 - ・ 空調設備の運転時間及び室温設定を最適にします。
2. 資源の有効利用に努めます
 - ・ 食材は計画的に購入し、廃棄食材を減らします。
 - ・ 不要物は名古屋市の分別基準に従い再資源化に協力します。
 - ・ コピー・印刷用紙を節約します。
 - ・ マイ箸、マイカップを持参し、割り箸や使い捨て容器の使用を減らします。
 - ・ 卒業などで不要になった自転車は、リサイクルします。
3. 環境負荷の少ない移動手段を選択します
 - ・ 建物内での移動は階段を使用し、エレベーターの使用を最小限にします。
 - ・ 外出は徒歩、自転車又は公共交通機関を利用し、自家用車の利用を控えます。
 - ・ やむを得ず自家用車を利用する時は、アイドリングストップなど環境負荷の少ない運転を心がけます。
4. 健康で美しい空間を作ります
 - ・ 学内では禁煙し、学外で喫煙するときは、煙草を吸わない人に配慮し、許可された場所でのみ喫煙します。
 - ・ 身の回りの整理整頓を心がけます。

以上

平成23年4月1日 学友会一同

この宣言に基づき、学友会や各キャンパス自治会が企画・発案し、4キャンパスで開学記念日に学生と教職員が力を合わせて一斉清掃を行いました。キャンパス内共用部分、普段学生が使用する共用スペース(学生会館、体育館、格技場ほか)などの清掃・ごみ拾い・落ち葉拾い等を実施しました。大学祭でごみ・資源の分別を促すエコステーション(回収所)を設置し、分別を促すとともに、意識の啓発を行いました。



③ 国連食糧機関(FAO)の海外事務所に学生最大3名を派遣してインターンシップを実施する。

国際的な共同研究・支援活動として、世界の食糧生産と分配の改善と生活向上や生物多様性を目的とした国連食糧農業機関(FAO)でのインターンシップに関する協定を締結しています。この協定に基づき、例年2~3名程度の学生を世界各地のFAOオフィスに派遣しています。令和6年度は学生の応募がなく派遣することはできませんでした。

なお、優秀な留学生を受け入れ、日本人学生と共修させることで、環境と健康の安全学領域に俯瞰的な視野を持ち、社会課題の解決に挑戦できる高度プロフェッショナル人材の育成を目的とした「ASEANを中心とする環境健康安全学リーダー人材養成と国際ネットワーク形成プログラム」に令和6年度は医学研究科から留学生2名、薬学研究科から日本人学生3名、理学研究科から日本人学生1名が参加しました。

基本方針3

生物多様性の保全に関連する学術研究等を推進する。

アクションプラン (令和 6~8 年度)

生物多様性の保全に関連する研究や啓発活動を実施するとともに、環境分野における研究支援を行う。

令和 6 年度 具体的な取組目標

① 生物多様性研究センターを中心に、生物多様性の現状把握や保全に関連する研究を行うとともに、生物多様性に関わる名古屋市等の関連部署や活動団体と協働し、高校生をはじめとする市民に生物多様性の大切さを啓発する活動を行う。

② 環境分野に係る外部研究資金獲得に向けて関係各所管課室を通じて学内の研究者に公募情報を発信するなど研究支援を行う。

- ・総合地球環境学研究所の研究プロジェクト
- ・一般財団法人藤森科学技術振興財団研究助成
- ・公益財団法人八洲環境技術振興財団研究助成
- ・公益財団法人りそなアジア・オセアニア財団環境プロジェクト助成
- ・公益財団法人市村清新技術財団地球環境研究助成
- ・公益財団法人市村清新技術財団市村地球環境学術賞
- ・公益財団法人三島海雲記念財団自然科学部門研究助成
- ・株式会社積水インテグレートドリサーチ積水化学自然に学ぶものづくり研究助成
- ・公益財団法人旭硝子財団ブループラネット地球環境特別研究助成

関連するSDGs



自己評価



- [評価] ◎：目標（年度計画）を達成した
○：一部未達成だが概ね達成した
△：取組が不十分である
×：取組を行わなかった

(1) 令和6年度計画の取り組み状況

① 生物多様性研究センターを中心とした生物多様性の保全に関連する研究の実施

理学研究科では、陸の豊かさを守るために（SDGs 目標 15）、名古屋周辺に生息する貝類・昆虫類・クモ類などの標本を収集するとともに、収集した貝類についての研究成果を論文にまとめて公表しました。また、海の豊かさを守るために（SDGs 目標 14）、インドネシアやタイの魚類に関する標本収集と DNA 解析も行いました。さらに、理学研究科教員が名古屋市内の生物多様性保全活動に関わる市民団体（なごや生物多様性保全活動協議会）と連携協働し、名古屋圏に固有の植物の遺伝的位置づけを解明する共同研究を実施しました。愛知県立の2高等学校の生徒による研究活動も、DNA 解析などにより支援しました。

② 環境分野に係る外部研究資金獲得に向けて公募情報を発信するなど研究支援の実施

環境分野に係る外部研究資金獲得に向けて公募情報を発信するなど、研究支援を行いました。

<公募情報の発信実績>

- ・一般財団法人藤森科学技術振興財団研究助成
- ・公益財団法人八洲環境技術振興財団研究助成
- ・公益財団法人りそなアジア・オセアニア財団環境プロジェクト助成
- ・公益財団法人市村清新技術財団地球環境研究助成
- ・公益財団法人市村清新技術財団市村地球環境学術賞
- ・公益財団法人三島海雲記念財団自然科学部門研究助成
- ・株式会社積水インテグレートドリサーチ積水化学自然に学ぶものづくり研究助成
- ・公益財団法人旭硝子財団ブループラネット地球環境特別研究助成
- ・公益財団法人住友財団環境研究助成
- ・一般社団法人カーボンリサイクルファンド研究助成

基本方針4	環境に関連した公開講座、シンポジウム等を地域社会や企業などと連携して開催し、地域社会に貢献する。	
アクションプラン (令和6~8年度)	生涯学習等の展開の中で、環境に関連した教育・研究成果を市民へ還元するとともに、環境に関するイベントに参加し、市民の意識の向上に寄与する。	
令和6年度 具体的な取組目標	① 本学が主催する公開講座や他機関との連携講座などで、環境に関連したテーマの講座を開催する。 ② 名古屋市等が開催する環境やSDGsに関連したイベントに出展し、本学の取り組みの発信を行う。 ・「環境デーなごや2024」(名古屋市主催) ・「SDGs AICHI EXPO2024」(愛知県主催)	
関連するSDGs		
自己評価	◎	[評価] ◎：目標(年度計画)を達成した ○：一部未達成だが概ね達成した △：取組が不十分である ×：取組を行わなかった

取り組み状況

(1) 令和6年度計画の取り組み状況

① 生涯学習機会の提供等

本学は、「地域に開かれた大学」を目指して、幅広い世代の市民に生涯学習機会を提供しており、環境に関連した研究成果を、以下のように広く市民の方へ還元しています。

◎本学SDGsセンターは令和6年11月3日に、地域の高校生と大学生がSDGsについて考えるNCUサステナビリティ・プレゼンアワードを開催しました。「衣」をテーマに、自由な発想でSDGsに関する「問題提起」と「解決・改善策」を提案するプレゼン大会とワークショップを行いました。プレゼン大会では古着リサイクルやファッションにおける環境問題を取り上げた発表や「衣」が持つ「外側を覆うもの」という観点からペットボトルのラベルや錠剤のPTPシートのリサイクルをテーマにした自由な発想に基づ



く発表もありました。参加者共同でのワークショップでは、持続可能な社会の実現に向けて何ができるのかを議論し、理解を深めました。

◎本学 SDGs センターは令和 7 年 3 月 22 日に、**Human Feedback** プロジェクト 2025 として講演会「動物とヒトとの共存 そのために私たちに何ができるか？」を開催しました。人の医療を動物に還元することをテーマに 1995 年から続けられている本プロジェクトの取り組みの 1 つとして東山動物園と共同で開催し、特定非営利活動法人日本オランウータン・リサーチセンターの方々から講演をいただきました。

② 環境に関する各種イベントへの参加等

◎市民とともに名古屋市内の全区で生物調査を行うイベント「なごや生きもの一斉調査 2024 アメリカザリガニとエビ・カニ類編」（令和 6 年 9 月 29 日、10 月 5～6 日）で、理学研究科附属生物多様性研究センターのスタッフ 2 名が調査の地点リーダーを務めるとともに、理学研究科・総合生命理学部の学生 7 名が一般調査員として参加しました。

◎令和 6 年 10 月 10 日～12 日に愛知国際展示場で開催された愛知県等からなる「SDGs AICHI EXPO 実行委員会」主催の「SDGs AICHI EXPO 2024」へのブース出展を行いました。本学の SDGs に関する取り組みの紹介や人文社会学部学生による SDGs につながる行動を考えるワークショップの他、経済学部学生による「祭りを通じた地域参加」の活動紹介や薬学部学生が「医薬品 PTP シートのリサイクル」についての説明を行いました。



◎令和 6 年 11 月 9 日に開催された「第 9 回なごや生物多様性センターまつり」では、理学研究科附属生物多様性研究センターが、「なごやの淡水産貝類の多様性」をテーマとしたブースを出展し、名古屋の陸域水系に生息する多様な淡水産貝類について、ポスターや多数の殻標本とともに紹介しました。

◎名古屋市スポーツ市民局の消費者啓発事業に、人文社会学部の学生がゼミ活動として連携協力し、その一環で令和 6 年 10 月 12 日に開催された名古屋市消費生活フェア「なごやエシカルフェア☆2024」にブース出展を行いました。レンゴー株式会社豊橋工場との連携によって作成した段ボール製のリサイクルボックスの展示等を行いました。

◎SDGsに関する各種イベントにパネルを展示し、環境を含めた本学のSDGsに関連する取り組みの紹介を行いました。

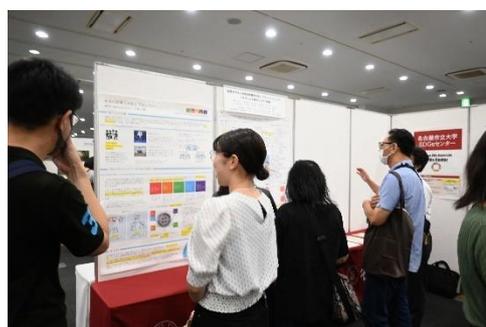
ア 令和6年8月21日に吹上ホールで開催された「SDGs 将来世代創造フォーラム 2024」（アサヒ飲料中部北陸本部主催）でのブース出展

イ 令和6年8月24日にウインクあいちで開催された「中日SDGsフェア」（中日新聞社主催）でのブース出展

ウ 令和6年11月22日に名古屋東京海上日動ビルディングで開催された「SDGsまつり」（主催：中部圏SDGs広域プラットフォーム、共催：愛知県／岐阜県／三重県／名古屋市）でのブース出展



SDGs 将来世代創造フォーラム 2024の様子



中日SDGsフェアの様子

◎市民・事業者・行政の協働のもと、よりよい環境づくりに向けて具体的な行動を実践する「環境デーなごや」のパートナーシップ事業に参加しました。

基本方針5

環境負荷低減のために、環境マネジメントシステムに沿って行動計画（アクションプラン）を策定し、キャンパス内で省エネルギー・省資源に積極的に取り組み、実践していく。

アクションプラン (令和 6~8 年度)

- ① エネルギー使用量の削減に努める。水道使用量の削減に努める。
- ② 温室効果ガス排出量の削減に努める。
- ③ 自動車燃料の使用量の削減に努める。
- ④ 用紙使用量の削減に努める。
- ⑤ 一般廃棄物（感染性一般廃棄物を除く）の削減に努める
- ⑥ 責任ある消費のもと、病院において排出する医療廃棄物（感染性一般廃棄物、感染性産業廃棄物及び非感染性産業廃棄物）について、適正な回収・処理を行い、資源の持続可能な管理に努めるとともに、感染性廃棄物による汚染を防止し環境負荷を軽減し、合わせて感染の防止に努める。
- ⑦ 〈施設再編整備での取り組み〉新棟建設においては、断熱性能の向上や高効率機器の導入等に努めることで、環境に配慮した建物とする。
- ⑧ 〈救急災害棟での取り組み〉救急災害医療センター建設にあたり、省エネ型機器やシステム等の採用に努めるなど、エネルギー消費の低減に努める。

令和 6 年度 具体的な取組目標

- ① エネルギーの使用に係る原単位を年平均 1%以上低減する。水道使用量について、前アクションプラン期間（令和 3~5 年度）の平均使用量以下となるよう節減に努める。
- ② 名古屋市「市民の健康と安全を確保する環境の保全に関する条例」に基づく地球温暖化対策計画書に掲げる温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成に取り組む。
- ③ 年間の自動車燃料使用量について、車両一台あたりの使用量が令和 5 年度の一台あたりの使用量以下となるよう削減に努める。
- ④ 両面印刷や集約印刷、不要となった用紙の裏面利用、ペーパーレス会議の拡充等により、職員一人当あたり、年間の用紙使用量が前アクションプラン期間（令和 3~5 年度）の平均使用量以下となるよう削減に努める。
- ⑤ 職員一人あたり、年間の一般廃棄物の排出量について、前アクションプラン期間（令和 3~5 年度）の平均排出量以下となるよう削減に努める。

- ⑥ 環境省が作成した「廃棄物処理法に基づく感染性廃棄物処理マニュアル」を基に医療廃棄物の適正な処理を行う。医療廃棄物の分別方法について院内にて研修や掲示を通して周知を行う。
- ⑦ 〈施設再編整備での取り組み〉新棟建設においては、ZEB Ready※相当の水準の環境性能を持つ建物を目標にする。
 ※ZEB(ゼブ)とは「Net Zero Energy Building (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)」の略称であり、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物のこと。ZEBには4段階あり、その中でZEB Readyとは再生可能エネルギーを除き、基準一次エネルギー消費量から50%以上の一次エネルギー消費量削減に適合した建築物を指す。
- ⑧ 〈救急災害棟での取り組み〉
 建築：断熱性能の高い複層ガラスの採用や室内日射抑制を図るバルコニー等の設置
 空調設備：高効率なコージェネレーションシステムや地中熱利用空調システムの採用
 衛生設備：節水型器具及び自動水栓の採用
 電気設備：LED照明器具の採用。人感センサーやスケジュールによるこまめな制御

関連するSDGs



自己評価

○

【評価】 ◎：目標（年度計画）を達成した
 ○：一部未達成だが概ね達成した
 △：取組が不十分である
 ×：取組を行わなかった

取り組み状況

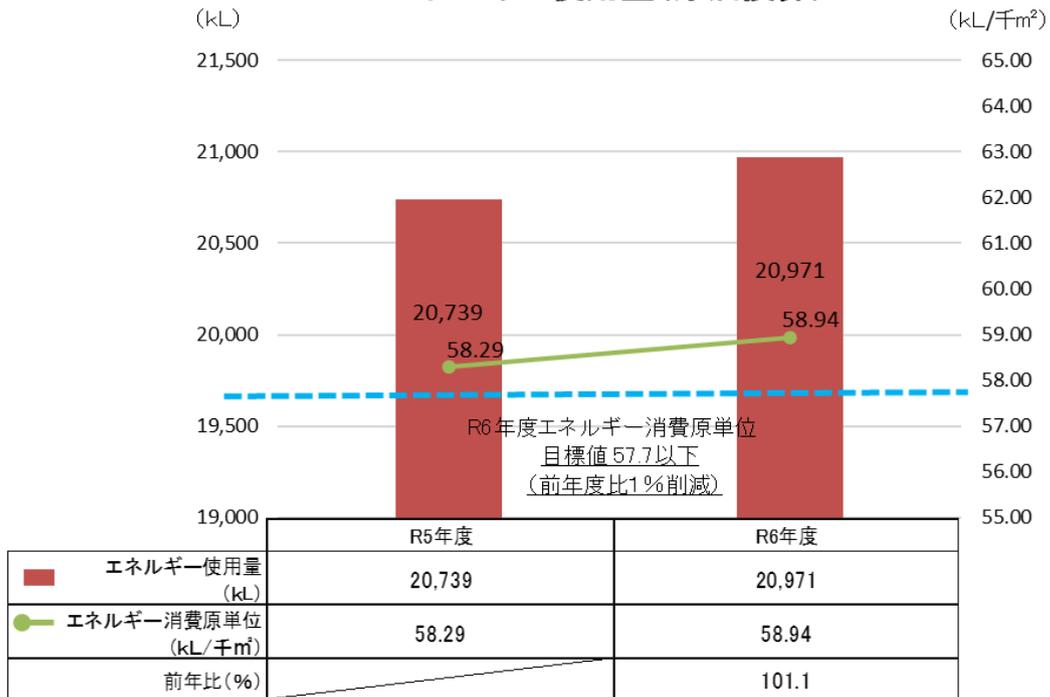
（1）令和6年度計画の取り組み状況

省エネ法（エネルギーの使用の合理化等に関する法律）に基づき、桜山（川澄）キャンパス、東部医療センター、西部医療センターは第一種エネルギー管理指定工場等に指定されており、省エネルギー推進委員会を置いてエネルギー使用量の削減に取り組んでいます。

①-1 エネルギー使用量

本学で令和6年度に使用した電気、ガス等のエネルギーは原油換算で20,971kLとなりました。エネルギー使用量は令和5年度と比較して1.1%増加、エネルギー消費原単位（施設面積あたりのエネルギー使用量）も同様に1.1%増加しました。本学では「エネルギーの使用に係る原単位（エネルギー消費原単位）を年平均1%以上低減する。」を目標としており、令和6年度は達成できませんでした。主な要因としては7～9月の各月で平均気温が前年度に比べて高く熱源機器の運転時間が増加した影響と考えられます。目標達成に向けてより一層の省エネ活動に取り組んでまいります。

エネルギー使用量(原油換算)



省エネ法の改正に伴い、令和4年度以前は使用係数が異なるため、令和5年度・令和6年度の比較としました。

電気使用量

千kWh

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
桜山キャンパス(病院除く)	10,216	10,872	10,818	10,675
市大病院	17,732	18,793	19,595	20,170
田辺通キャンパス	3,596	3,518	3,450	3,493
滝子キャンパス	2,172	2,288	2,444	2,479
北千種キャンパス	951	1,026	975	1,052
葵校舎			24	28
東部医療C	12,652	11,881	11,628	11,896
西部医療C	10,659	10,736	10,605	9,932
みどり市民病院			3,168	3,530
みらい光生病院			1,034	1,083
総使用量	57,978	59,114	63,741	64,338

ガス使用量

千㎡

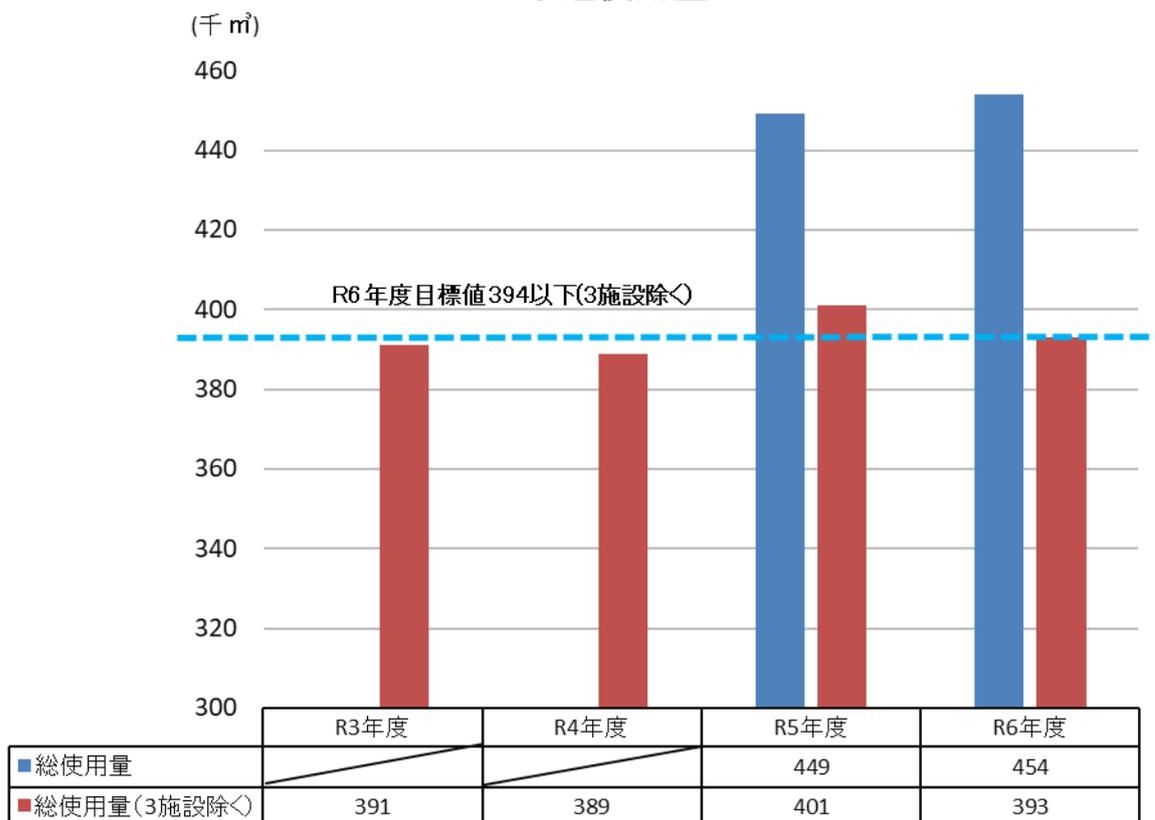
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
桜山キャンパス(病院除く)	882	780	709	691
市大病院	2,649	1,925	1,889	1,903
田辺通キャンパス	353	322	335	363
滝子キャンパス	109	127	125	131
北千種キャンパス	34	42	35	46
葵校舎			3	3
東部医療C	305	336	320	352
西部医療C	14	14	13	15
みどり市民病院			197	186
みらい光生病院			340	344
総使用量	4,346	3,546	3,966	4,034

令和5年度より葵校舎、みどり市民病院、みらい光生病院が加わりました。

①-2 水道使用量

本学で令和6年度に使用した水道は約454千 m^3 となり、令和5年度と比較して1.1%増加しました。本学では前アクションプラン期間(令和3年度～令和5年度)の平均使用量約394千 m^3 以下となることを目標としており、前アクションプラン期間に含まれない3施設(葵校舎、みどり市民病院、みらい光生病院)を除いた総使用量約393千 m^3 を目標値と比較すると、約0.3%減少となり、目標を達成することができました。

水道使用量



水道使用量

	千 m^3			
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
桜山キャンパス(病院除く)	72	66	66	57
市大病院	181	178	190	185
田辺通キャンパス	17	17	16	16
滝子キャンパス	12	14	15	17
北千種キャンパス	3	4	3	4
葵校舎			0.1	0.1
東部医療C	57	56	57	61
西部医療C	49	54	54	53
みどり市民病院			24	32
みらい光生病院			24	29

令和5年度より葵校舎、みどり市民病院、みらい光生病院が加わりました。

② 温室効果ガス排出量

名古屋市の「市民の健康と安全を確保する環境の保全に関する条例」（環境保全条例）では、エネルギー使用量が800kL以上の事業者に対し、地球温暖化対策計画書及び地球温暖化対策実施状況書を提出することを求めています。

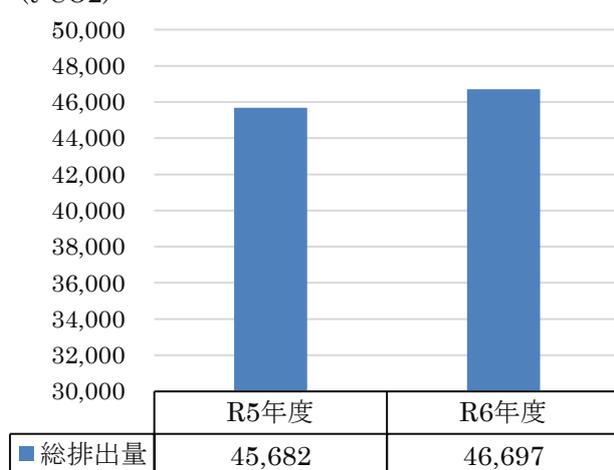
当計画書では、温室効果ガス排出量について目標削減率を掲げ、実施状況書によりその達成状況を報告することとなっています。

本学では、桜山キャンパス、田辺通キャンパス、東部医療センター、西部医療センター及びみどり市民病院が対象施設であり、令和5年度を基準年度とし、令和6年度～令和8年度を期間とする計画に取り組んでいます。令和6年度における基準年度に対する削減目標を西部医療センターは達成し、桜山キャンパス、田辺通キャンパス、東部医療センター、みどり市民病院は未達成でした。未達成の主な原因としては、エネルギー使用量と同様、7～9月の各月で平均気温が前年度に比べて高く熱源機器の運転時間が増加した影響と考えられます。目標達成に向けてより一層の省エネ活動に取り組み、引き続き各使用量の削減に努めてまいります。

地球温暖化計画書に掲げる温室効果ガス排出量の削減目標及び実績

	基準年度(令和5年度) 排出量(t-CO2)		令和6年度排出量 (t-CO2)		基準年度に 対する削減 目標	令和6年度 実績
	原単位あたり		原単位あたり			
桜山キャンパス	原単位あたり	0.1687	原単位あたり	0.1705	0.2%	1.1%増加
田辺通キャンパス	原単位あたり	0.114	原単位あたり	0.1175	9.7%	3.1%増加
東部医療C	総排出量	5,792	総排出量	6,278	3.0%	8.4%増加
	原単位あたり	0.1089	原単位あたり	0.1180	3.0%	8.4%増加
西部医療C	総排出量	6,844	総排出量	6,755	3.0%	1.3%減少
	原単位あたり	0.1607	原単位あたり	0.1586	3.0%	1.3%減少
みどり市民病院	総排出量	1,796	総排出量	1,927	3.0%	7.3%増加

温室効果ガス排出量（全体）
(t-CO2)



温室効果ガス排出量(内訳) (t-CO2)

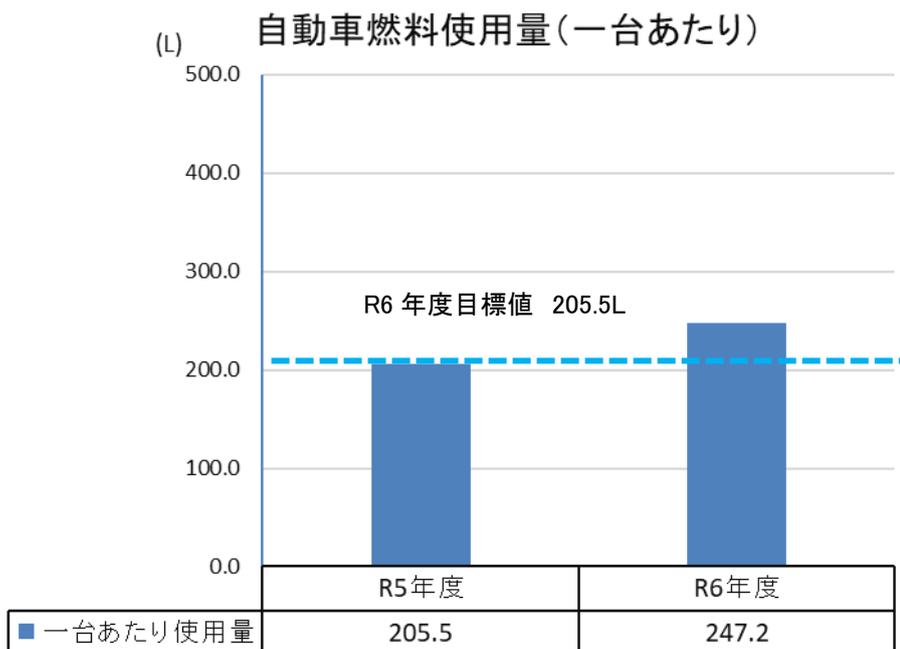
	R5年度	R6年度
桜山キャンパス	24,627	24,882
田辺通キャンパス	2,886	2,975
滝子キャンパス	1,787	1,822
北千種キャンパス	679	752
葵校舎	17	20
東部医療C	5,792	6,278
西部医療C	6,844	6,755
みどり市民病院	1,796	1,927
みらい光生病院	1,254	1,286

現計画期間(令和6年度～令和8年度)は前計画期間(令和3年度～令和5年度)と使用係数が異なるため、現計画期間の基準年度である令和5年度及び計画期間1年目の令和6年度の比較としました。

③ 自動車燃料使用量

本学では、自動車を12台所有しています。これらの自動車の利用に伴い使用した燃料（軽油についてはガソリン給油量に換算）は、令和5年度の車両一台あたり使用量205.5L以下となるよう削減に努めるようにしています。これに対し、令和6年度の一台あたりの使用量は、業務の拡大に伴い稼働率が上がったことにより、247.2Lとなりました。

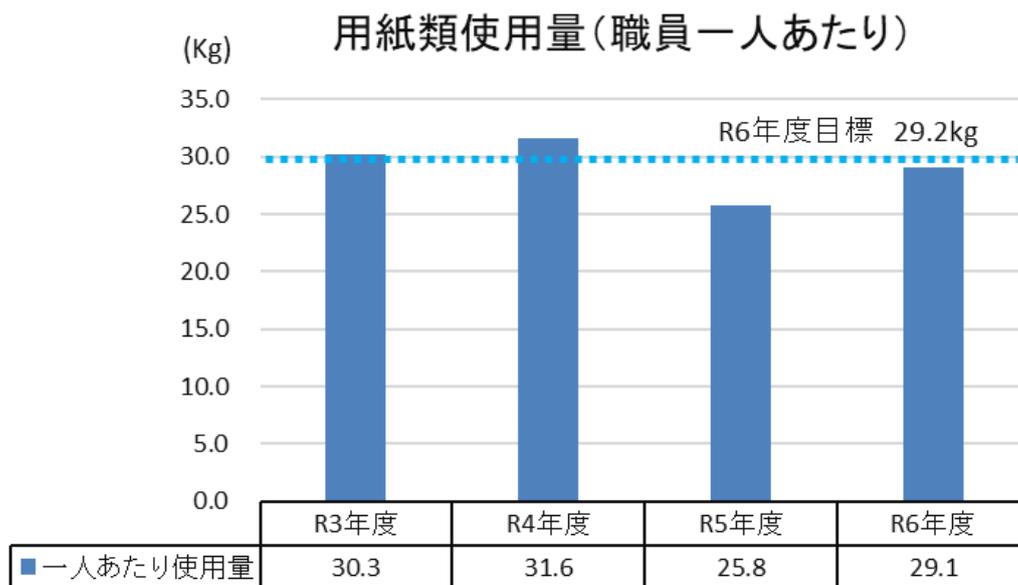
今後も、ウェブ会議システムを活用した遠隔会議を推進する等、より一層自動車燃料使用量の削減に取り組んでまいります。



④ 用紙類使用量

用紙類の総使用量については、アクションプランにおいて、前アクションプラン期間（令和3年度～令和5年度）の平均使用量（職員一人あたり）29.2kg以下の量となるよう削減に努めるとしてしています。これに対し、令和6年度の使用量は職員一人あたり29.1kgとなり、目標を達成することができました。

継続して使用量を削減する努力を積み重ねてきていることから、今後も、電子決裁システムの利用、ペーパーレス会議システムを活用した会議の実施、両面印刷及び裏紙利用の徹底など、日常的な削減努力を続けていきたいと考えています。



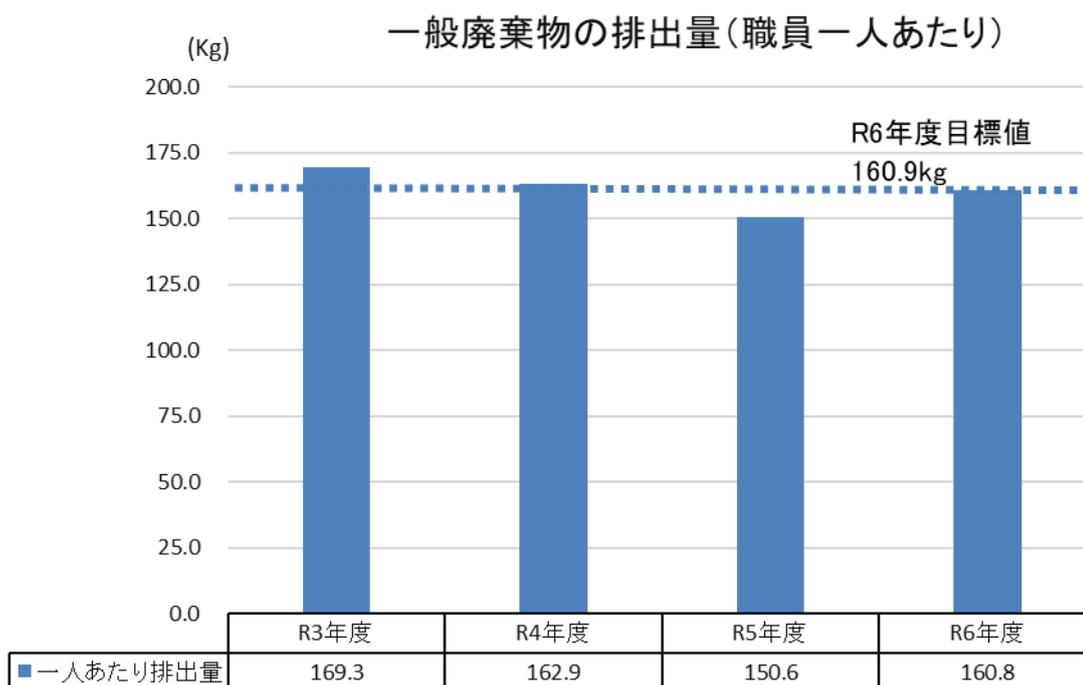
用紙使用量（施設ごと） (t)

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
桜山キャンパス(病院除く)	18.7	21.2	22.1	15.7
市大病院	49.9	53.5	51.5	55.0
田辺通キャンパス	1.2	0.7	0.1	0.1
滝子キャンパス	7.8	9.6	8.8	9.1
北千種キャンパス	1.8	1.4	1.5	1.2
葵校舎			0	0.5
東部医療センター	21.6	22.1	20.8	21.3
西部医療センター	30.7	34.5	37.7	38.8
みどり市民病院			8.0	9.6
みらい光生病院			4.0	5.1
総使用量	131.7	143.1	154.5	156.4

令和5年度より葵校舎、みどり市民病院、みらい光生病院が加わりました。

⑤ 一般廃棄物排出量

感染性一般廃棄物を除く一般廃棄物の総排出量については、アクションプランにおいて、前アクションプラン期間（令和3年度～令和5年度）の平均排出量（職員一人あたり）160.9kg以下の量となるよう削減に努めることとしています。これに対し、令和6年度の総排出量は職員一人あたり160.8kgとなり、目標を達成しました。今後も、雑がみを一般廃棄物にせず分別してリサイクルする等、一般廃棄物の一般廃棄物の排出量削減に努めてまいります。



一般廃棄物の排出量（施設ごと） (t)

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
桜山キャンパス(病院除く)	65.0	60.2	62.5	46.9
市大病院	199.4	204.7	209.9	215.7
田辺通キャンパス	19.9	12.1	17.1	18.9
滝子キャンパス	18.5	21.2	24.2	22.1
北千種キャンパス	13.1	18.1	18.5	20.2
葵校舎				0.3
東部医療センター	256.5	259.8	264.8	187.4
西部医療センター	164.5	162.3	162.8	169.0
みどり市民病院			66.4	83.8
みらい光生病院			75.3	100.2
総排出量	736.9	738.4	901.5	864.5

令和5年度より葵校舎、みどり市民病院、みらい光生病院が加わりました。

⑥ 医療廃棄物の処理

附属病院では、医療活動で排出される医療廃棄物（感染性産業廃棄物、非感染性産業廃棄物）について、分別方法を院内にて研修や掲示を通して周知するとともに、法令順守のもと廃棄物処理に係る規程に則り、適正に回収・処理を行っています。

市大病院は、平成 20 年 2 月に認定され、平成 25 年 8 月に最新バージョンでの全国第 1 号認定（機能種別一般病院 2）を受けた病院機能評価においても、廃棄物処理は適切であると評価されています。令和 6 年度は、1,258t の医療廃棄物を業者委託により回収し、適正に処理を行いました。

東部医療センターは、平成 16 年 9 月に認定され、令和 6 年 9 月に受けた病院機能評価（機能種別一般病院 2）においても、廃棄物処理は適切であると評価されています。令和 6 年度は、805.7t の医療廃棄物を業者委託により回収し、適正に処理を行いました。

西部医療センターは、平成 25 年 1 月に認定され、令和 5 年 3 月に受けた病院機能評価（機能種別一般病院 2）においても、廃棄物処理は適切であると評価されています。令和 6 年度は、734t の医療廃棄物を業者委託により回収し、適正に処理を行いました。

みどり市民病院は、令和 6 年度は、557t の医療廃棄物を業者委託により回収し、適正に処理を行いました。

みらい光生病院は、令和 6 年度は、55t の医療廃棄物を業者委託により回収し、適正に処理を行いました。

⑦ 省エネルギー対策の推進

本学では、令和 9 年度の供用開始を目標に、滝子キャンパスと田辺通キャンパスの再編整備を進めています。令和 6 年度はこれらの実施設計を行いました。環境に配慮した建築物として BEI（基準一次エネルギー消費量）が 0.5 以下となるよう設計し、BELS（建築物省エネルギー性能表示制度）認証も取得しています。



滝子キャンパス 外観イメージ



田辺通キャンパス 外観イメージ

⑧ 省エネルギー対策の推進 ※救急災害棟での取り組み

救急災害医療センターは、省エネ型機器やシステム等の採用に務めるなど、エネルギー消費の低減に努めています。

- ・断熱性能の高い複層ガラスの採用
- ・室内日射抑制を図るバルコニー等の設置
- ・高効率なコージェネレーションシステムの採用
- ・地中熱利用空調システムの採用
- ・節水型器具及び自動水栓の採用
- ・LED 照明器具を採用し、人感センサーやスケジュールによるこまめな制御

(2) その他の取り組み状況

① 地球温暖化対策実施状況の報告

名古屋市の「市民の健康と安全を確保する環境の保全に関する条例」(環境保全条例)に基づき、温室効果ガスの排出量等を、地球温暖化対策実施状況書により名古屋市に報告しています。また、本学ウェブサイトにおいても、実施状況報告書・計画書を公開しております。

(<https://www.nagoya-cu.ac.jp/about/environment/ondanka/index.html>)

② 省エネ法定定期報告に基づく事業者クラス分け評価

本学は、エネルギーの使用の合理化等に関する法律(省エネ法)に基づき、経済産業省中部経済産業局に対し、エネルギー使用状況等に関する定期報告を行っております。

事業者クラス分け評価制度は、定期報告を評価し、提出する全ての事業者をS・A・B・Cの4段階へクラス分けするものですが、本学は平成27年度実績より令和3年度までSクラス(省エネが優良な事業者)の評価を得ていましたが、エネルギー原単位の大きい病院施設、東部・西部両医療センターが市立大学医学部附属病院になり、これにより、令和4年度Aクラスとなり、令和6年度Aクラス見込みとなっています。今後については、一層の省エネ活動を進めていきたいと思っております。

(https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/enterprise/overview/institution/)

基本方針6	物品調達に際してグリーン購入の推進を図るとともに、設備・機材等の利用にあたって廃棄物の減量化とリサイクル資源の活用を推進していく。	
アクションプラン (令和6~8年度)	① 再利用の促進を学内に広く周知し、不要物品の有効活用を推進し、廃棄物の減量化を図る。 ② 古紙、びん、缶、ペットボトルの資源化率100%を維持しつつ、環境に配慮した取り組み周知を図る。	
令和6年度 具体的な取組目標	① 学内における不要物品の有効活用を継続して実施するとともに、有効活用した物品を一覧にし、廃棄物の減量を可視化する。 ② 資源化率100%を維持する。	
関連するSDGs		
自己評価	◎	[評価] ◎：目標（年度計画）を達成した ○：一部未達成だが概ね達成した △：取組が不十分である ×：取組を行わなかった

取り組み状況

(1) 令和6年度計画の取り組み状況

① 不要物品等の有効活用

各所属にて不要物品が出た場合は、再利用できる旨を学内へ周知して再使用希望者を募集しており、不要物品の有効活用を継続して実施しています。また、有効活用した物品を一覧にして可視化し、更なる廃棄物減量に向けて努めています。

② 古紙、びん、缶、ペットボトルの資源化率

資源化率100%を継続することができました。

(2) その他の取り組み状況

本学では、名古屋市グリーン購入推進指針及び名古屋市グリーン購入ガイドラインに基づき、環境に配慮した製品の選定に努めています。

基本方針7

環境マネジメントシステムを絶えず見直すとともに、環境保全活動の成果（環境報告書）を広く社会に公表していく。

アクションプラン (令和 6～8 年度)

- ① 環境報告書を作成し、広く社会に公表・発信する。
- ② SDGs センターにおいて、学内・学外と連携し、本学の有する教育、研究成果等の資源を活用し、SDGs の達成に向けた活動を推進する。

令和 6 年度 具体的な取組目標

- ① SDGs との関連が分かるような環境報告書を作成し、本学ウェブサイトに掲載する。
- ② 各研究科から選出された委員等により構成された SDGs センター会議を開催し、SDGs センターの活動方針を決定するとともに、SDGs に関する活動について情報共有を実施する。

SDGs センターとして学内・学外と連携したシンポジウム等を開催する(共催や協賛等のイベントを含む)

SDGs センターHP において SDGs 達成に向けた活動内容を発信するとともに、News Letter を発行する。

自己評価

◎

[評価] ◎：目標（年度計画）を達成した
○：一部未達成だが概ね達成した
△：取組が不十分である
×：取組を行わなかった

取り組み状況

(1) 令和 6 年度計画の取り組み状況

① 環境報告書の発信

環境報告書 2023[令和 5 年度版]を作成し、本学ホームページにおいて公表しました。

②-1 SDGs センター会議の開催

各研究科から選出された委員等により構成された SDGs センター会議を開催し、SDGs センターの活動方針を決定するとともに、SDGs に関する活動の情報共有を実施しました。



②-2 シンポジウム等の開催

SDGs センターは、学内・学外と連携したシンポジウム等を開催し、SDGs に関する取り組みや研究成果を紹介しました。

- ・令和6年11月3日 NCU サステナビリティ・プレゼンアワードー「衣」から考えるSDGs
- ・令和6年12月23日 SDGs センターシンポジウム「医療現場の多文化共生最前線～言葉や文化の見えない壁を超えて～」
- ・令和7年3月22日 Human Feedback プロジェクト2025「動物とヒトとの共存 するために私たちに何が出来るか？」



シンポジウムの様子

②-3 SDGs 活動の発信

本学における研究、教育、その他取り組みについて、「SDGs 活動レポート」としてSDGs センターWEBサイトに公開しました。SDGs17ゴールごとに、本学の取り組みを整理しています。

また、SDGs News Letter を発行し、SDGs 関連イベントで配布するなど本学の多様なSDGsの取り組みを広く発信しました。

(<https://www.nagoya-cu.ac.jp/sdgscenter/sdgsactions/>)



SDGs News Letter Vol. 19

5. アクションプラン以外の取り組み状況

(1) 行政機関の環境政策の形成等への関わり

名古屋市審議会等委員として、各研究科の教員が選出され、名古屋市における環境保全に関する施策に関し、重要な提言等を行うなど、行政機関の環境政策の形成等に積極的に貢献しました。

令和6年度 審議会等委員就任状況一覧（環境配慮に関連するもの）

教員名	審議会等名称
伊藤由起（医学研究科准教授）	名古屋市環境審議会
曾我幸代（人間文化研究科准教授）	名古屋市環境審議会
森 旬子（芸術工学研究科教授）	名古屋市広告・景観審議会景観形成基準見直し検討部会委員

(2) エコスタイル運動への取り組み

例年実施しているエコスタイル運動については、令和6年度は、5月1日から10月31日まで実施しました。ネクタイ、上着等の着用を省き、半袖シャツや開襟シャツ等の軽装に心がけ、冷房の使用にあたって配慮ができるよう、本学一丸となって夏場の省エネルギーに取り組みました。

(3) 大学施設・地域美化活動事業

職員によるキャンパス周辺のボランティア清掃活動を毎月25日の昼休憩中または始業前に実施しました。区内各公所との連携社会貢献活動である瑞穂区内一斉ボランティア清掃にも継続して参加し、地域の環境美化に努めました。



(4) 名市大古本募金による古本の回収

「名市大古本募金」とは、在校生、卒業生、保護者、教職員または一般の方々から提供された書籍類（CD・DVD等を含む）の買い取り金額が本学への寄附金となる仕組みです。提供された書籍類は再利用されており、環境保全に貢献しています。

(5) 環境配慮に関する職員研修

新規採用者研修において、本学の環境に対する取り組みや環境マネジメントシステムを紹介し、環境配慮への意識啓発を行いました。

(6) 附属病院の取組み

附属病院では、高度先進医療を提供し療養環境を向上させるための最新の医療設備の整備、手術件数や救急受入件数の増加により、年々、環境に負荷をかける度合いが大きくなっていることに対し、各々環境負荷の軽減に努めています。

市大病院は、地上 17 階、地下 2 階建の病棟・中央診療棟、及び、外来診療棟、東棟、西棟からなる附属病院です。特定機能病院、災害拠点病院等、多くの承認を受けており、名古屋都市圏の中核医療機関として、皆様の健康と福祉に貢献することを使命としています。平成 30 年度より、空調・熱源機器の設定温度や運転時間等を見直す運用改善を一層推進しています。また、改修工事や設備更新などにより、LED 照明器具に切り替えて運用しています。

東部医療センターは、地上 8 階建の入院・診療棟、及び、地上 4 階建の救急・外来棟、地上 5 階、地下 1 階建の教育・研究棟（旧東病棟）からなる附属病院です。第二種感染症指定医療機関、災害拠点病院、救命救急センターの指定、地域医療支援病院の承認を受けており、安全かつ高度な医療を提供し、市民のいのちと健康を守るとともに優れた医療人を育成することを基本理念としています。平成 27 年 3 月に救急・外来棟、令和 2 年 1 月に入院・診療棟が開棟しました。入院・診療棟は開棟時より全域、救急・外来棟の一部では、LED 照明器具に切り替えて運用しており、今後も改修工事や設備更新などにより可能な箇所について、LED 照明器具への切り替えを進めています。

西部医療センターは、これまでの地域周産期母子医療センター、がん診療拠点病院、災害拠点病院等の国や県から認定された役割だけでなく、大学病院としてより一層高度かつ安心・安全な医療の提供をすることを使命としています。空調に関しては、中央管理の空調システムにより、それぞれのエリアの使用状況に応じた運転時間を設定しています。また、間接蒸気発生器の運転設定の見直し、手動蒸気元弁の閉止作業の実施等により適切な空調加湿管理し、無駄の少ない省エネルギー対策をしています。令和 2 年度より、井水ろ過装置を設置し、災害拠点病院として更に備えを強化しただけでなく、日常的に従来から利用している雨水と併用して省エネルギー対策として効果を上げています。また、令和 5 年度に院内の照明器具を LED 照明に切り替え、消費電力の削減に伴う温室効果ガスの排出削減を図りました。

みどり市民病院は、令和 5 年度より名古屋市立大学医学部の附属病院群に加わり、合わせて災害協力病院となりました。空調に関しては、空調・熱源機器の設定温度や運転時間等を見直す運用改善を行っております。また、改修工事や設備更新などにより可能な箇所について、LED 照明器具に切り替えて運用しています。

みらい光生病院は、「健康寿命日本一の名古屋」を目指す医療を提供するとともに百寿社会に資する先端研究を行い、優れた医療人の育成を理念に掲げ、令和 5 年 4 月に開院しました。建物は、名古屋市厚生院の一部を借り受けているため、空調に関しては、名古屋市厚生院の中央管理の空調システムにより一括で管理されています。

附属病院共通の取組としては、中央管理による空調システムや人感センサー付きの照明・洗面台等の省エネルギー対策を講じた設備を導入し、より環境負荷を削減するよう努めています。また、エスカレーターの運転時間の短縮、エレベーターの効率運用の推進、廊下やエントランス、外灯等、診療に直接影響の無い場所での照明点灯を制限する、患者さんや来院者に影響のない範囲で、空調・熱源機器の設定温度や運転時間等を見直す等の、省エネルギー対策を継続的に実施しています。

しかし、設備面から取りうる対策には限度があるため、病院に勤める職員それぞれが、環境負荷の削減を意識して日常の業務活動に取り組むことを目指して、日常的な意識啓発を進めています。

一方で、手術件数や救急受入件数の増加など医療活動の拡大に伴い、感染性廃棄物をはじめとした医療廃棄物は年々増加し、削減が困難な状況にあります。医療廃棄物の適正な回収・処理を行うとともに、再資源化の推進など廃棄量の増加抑制についても取り組んでいます。

このように附属病院では、今後も引き続き省エネルギー対策や適正な廃棄物処理を推進し、環境負荷を軽減していくように努めてまいります。

本学のSDGsへの取組みに対する評価

SDGs に対して、大学がいかに取組み、社会に影響を与えているかを可視化したランキング「THE インパクトランキング 2025 (※)」で、本学は総合ランキングで世界 401-600 位、国内同率 14 位（7 年連続公立大学 1 位）にランクインしました。

また、SDG 別のランキングでは、SDG3「すべての人に健康と福祉を」において世界同率 45 位、国内 3 位にランクインするなど、本学の取組みが高く評価されました。

今後も本学では、世界をリードする大学を目指し、SDGs のさらなる取組みを進めることにより、持続可能な社会の構築に向けた優れた人材を輩出するとともに、教育・研究成果を社会に広く還元してまいります。

(※)イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education (THE)」が発表したランキング
(令和 7 年 6 月 18 日発表)

○本学の総合順位とエントリーした SDG 別順位

(注) 順位横の「=」表記は、同順位であることを示しています。

	世界	日本
総合ランキング	401-600	=14
SDG3 すべての人に健康と福祉を	=45	3
SDG4 質の高い教育をみんなに	1,500+	=18
SDG5 ジェンダー平等を実現しよう	801-1,000	=4
SDG8 働きがいも経済成長も	601-800	=16
SDG9 産業と技術革新の基盤をつくろう	401-600	=28
SDG10 人や国の不平等をなくそう	601-800	=11
SDG11 住み続けられるまちづくりを	601-800	=29
SDG12 つくる責任つかう責任	401-600	=22
SDG15 陸の豊かさを守ろう	401-600	=19
SDG17 パートナリーシップで目標を達成しよう	301-300	=6



Nagoya City University
RANKED =45th
FOR SDG3: GOOD HEALTH AND WELL-BEING

www.thewur.com



Times Higher Education
Impact Rankings 2025

【参考資料】 公立大学法人名古屋市立大学の概要

名古屋市立大学は、8学部、7研究科、附属病院、図書館等を持つ公立大学法人です。総合大学として、様々な分野における教育・研究活動を展開し、社会貢献活動を推進するとともに、附属病院において高度先進医療を提供しています。

➤ **法人名** 公立大学法人名古屋市立大学

➤ **設 立** 昭和25年4月1日（平成18年4月1日公立大学法人化）

➤ **所在地及び敷地面積** (令和6年4月1日現在)

キャンパス	住所	敷地面積
桜山キャンパス ※	名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1	65,938.98 m ²
田辺通キャンパス	名古屋市瑞穂区田辺通 3-1	46,571.96 m ²
滝子キャンパス	名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑 1	63,587.59 m ²
北千種キャンパス	名古屋市千種区北千種 2-1-10	25,967.63 m ²
葵校舎	名古屋市東区葵 1-4-7	1,079.74 m ²
東部医療センター	名古屋市千種区若水一丁目 2-23	27,494.09 m ²
西部医療センター	名古屋市北区平手町一丁目 1-1	27,652.24 m ²
みどり市民病院	名古屋市緑区潮見が丘 1-77	8,494.72 m ²
みらい光生病院	名古屋市名東区勢子坊二丁目 1501	9,650.32 m ²
その他	留学生宿舎など	2,596.06 m ²

※市大病院は「桜山キャンパス」にあります。

➤ 沿 革

名古屋市立大学は、明治17年（1884年）に設置された名古屋薬学校にその端を発しています。昭和25年（1950年）4月1日、名古屋女子医科大学と名古屋薬科大学を統合して、医学部（旧制）と薬学部（新制）2学部を有する名古屋市立大学が発足しました。その後、様々な変革を経て、平成18年4月1日、公立大学法人名古屋市立大学として、新たなスタートを切ることとなりました。

（参考：<https://www.nagoya-cu.ac.jp/about/profile/history/index.html>）

➤ **構成員**（令和6年5月1日現在）

区分	人数（現員）
学部学生	4,264名
大学院生	820名
合計	5,084名

区分	人数（定員）
役員	13名
教員	813名
その他職員	3,612名
合計	4,438名

➤ **組 織**

本学ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/about/operations/05091845/>

➤ **法人の役員及び審議機関**

公立大学法人名古屋市立大学には、理事長、副理事長及び理事をもって構成される役員会が設置されています。役員会は13名の役員で構成しており、役員のうち、2名が学外理事です。また、法人には、法人の設立団体である名古屋市の市長が任命する監事2名（学外者）が置かれており、法人の業務を監査するとともに、役員会にも出席しています。

その他、審議機関として、法人の経営に関する重要事項を審議する機関である経営審議会（学外委員を含みます。）、市立大学の教育研究に関する重要事項を審議する機関である教育研究審議会が設置されています。

➤ **予算**

歳入

（単位：千円）

科目	令和6年度当初予算額
大学収入	16,865,249
市立大学病院収入	59,116,254
東部医療センター収入	18,899,530
西部医療センター収入	23,797,700
みどり市民病院収入	5,726,505
みらい光生病院収入	2,817,028
合計	127,222,266

歳出

(単位：千円)

科目		令和6年度当初予算額
大学費	大学費	13,099,059
	整備費	1,498,149
	外部研究資金等	2,268,041
	小計	16,865,249
市立大学病院	事業費	36,681,294
	整備費	19,713,000
	長期借入金償還金	1,731,635
	外部研究資金等	380,000
小計	58,505,929	
東部医療センター	事業費	16,835,376
	整備費	1,307,800
	長期借入金償還金	697,855
	外部研究資金等	55,000
小計	18,896,031	
西部医療センター	事業費	21,670,852
	整備費	1,126,354
	長期借入金償還金	226,793
	外部研究資金等	44,000
小計	23,067,999	
みどり市民病院	事業費	5,209,405
	整備費	498,000
	長期借入金償還金	9,100
	外部研究資金等	10,000
小計	5,726,505	
みらい光生病院	事業費	2,703,028
	整備費	109,000
	外部研究資金等	5,000
	小計	2,817,028
合計		125,878,741

➤ **中期目標・中期計画**

中期目標は、本学が達成すべき業務運営について名古屋市長が定めた目標で、第四期中期目標期間は令和 6 年度から令和 11 年度の 6 年間です。本学では第四期中期目標を達成するための具体的な取り組みを第四期中期計画として定めています。

(参考：<https://www.nagoya-cu.ac.jp/about/evaluation/medium-term/>)

➤ **名市大未来プラン 2021**

「大学憲章」の精神に則り、平成 26 年 10 月に策定した「名市大未来プラン」を継承しつつ、本学の現状や社会情勢の変化を踏まえて、本学が今後進むべき方向性を長期的かつ戦略的な視点で示す道しるべとして、令和 3 年 2 月に新たに「名市大未来プラン 2021」を策定しました。この中で SDGs17 の目標達成に向けた取り組みの推進をプランの 1 つとして掲げています。(参考：<https://www.nagoya-cu.ac.jp/about/profile/ncuplan/index.html>)

➤ **研究科等未来プラン 2021**

本学が今後進むべき方向性を長期的な視点で示す道しるべとして令和 3 年 2 月に策定した「名市大未来プラン 2021」を着実に実行するため、令和 4 年 1 月に、7 研究科・高等教育院・3 大学附属病院・社会貢献部門・国際部門の計 13 分野における計画を具体化させた「研究科等未来プラン 2021」を策定しました。この中で SDGs17 の目標達成実行に向けた取り組みについて、「社会貢献未来プラン 2021」で定めています。

(参考：<https://www.nagoya-cu.ac.jp/about/profile/ncuplan/index.html>)

➤ **環境配慮の取組の歴史**

本学は平成 21 年度より毎年度、教育・研究、社会貢献、大学運営の各活動における環境問題への取り組みの成果を環境報告書としてとりまとめています。

これまでに作成した環境報告書は本学ウェブサイトにおいてご覧いただけます。

(参考：<https://www.nagoya-cu.ac.jp/about/environment/report/index.html>)

【参考資料】環境報告ガイドライン（2018年版）との比較

環境報告ガイドライン 2018	ページ
環境報告の基礎情報	
1. 基本的要件	
(1) 報告対象組織	裏表紙
(2) 報告対象期間	裏表紙
(3) 基準・ガイドライン等	裏表紙
(4) 環境報告の全体像	—
2. 主な実績評価指標の推移	
主な実績評価指標の推移	17～26
環境報告の記載事項	
1. 経営責任者のコミットメント	
重要な環境課題への対応に関する経営責任者のコミットメント	1
2. ガバナンス	
(1) 事業者のガバナンス体制	2、35
(2) 重要な環境課題の管理責任者	2
(3) 重要な環境課題の管理における取締役会及び経営業務執行組織の役割	2
3. ステークホルダーエンゲージメントの状況	
(1) ステークホルダーへの対応方針	7～16、30
(2) 実施したステークホルダーエンゲージメントの概要	7～16、30
4. リスクマネジメント	
(1) リスクの特定、評価及び対応方法	—
(2) 上記の方法の全社的なリスクマネジメントにおける位置づけ	—
5. ビジネスモデル	
事業者のビジネスモデル	37
6. バリューチェーンマネジメント	
(1) バリューチェーンの概要	—
(2) グリーン調達の方針、目標・実績	27
(3) 環境配慮製品・サービスの状況	—
7. 長期ビジョン	
(1) 長期ビジョン	37
(2) 長期ビジョンの設定期間	37
(3) その期間を選択した理由	37
8. 戦略	
持続可能な社会の実現に向けた事業者の事業戦略	37
9. 重要な環境課題の特定方法	
(1) 事業者が重要な環境課題を特定した際の手順	2
(2) 特定した重要な環境課題のリスト	5、6
(3) 特定した環境課題を重要であると判断した理由	—
(4) 重要な環境課題のバウンダリー	—
10. 事業者の重要な環境課題	
(1) 取組方針・行動計画	3、5～29
(2) 実績評価指標による取組目標と取組実績	5～29
(3) 実績評価指標の算定方法	2
(4) 実績評価指標の集計範囲	裏表紙
(5) リスク・機会による財務的影響が大きい場合は、それらの影響額と算定方法	—
(6) 報告事項に独立した第三者による保証が付与されている場合は、その保証報告書	—



報告対象組織 桜山キャンパス（市大病院含む） 田辺通キャンパス
滝子キャンパス 北千種キャンパス
葵校舎
東部医療センター 西部医療センター
みどり市民病院 みらい光生病院

報告対象期間 令和6年度（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

準拠あるいは参考にした環境報告等に関する基準又はガイドライン等

環境報告ガイドライン（2018年版）

作成部署及び連絡先 策定会議：公立大学法人名古屋市立大学環境委員会
事務担当：総務部総務課

名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 TEL 052-853-8005

公表ウェブサイト 本学ホームページ <https://www.nagoya-cu.ac.jp/>